

中央まちカフェ  
「てきてく」～一滴の雫から広がる、  
歩いていける居場所～

自治会組織が無い中央。近所づきあいも限られていました。近年の自然災害もあり、「もしも」の時に備え、日ごろからお互いの顔を知っておくことの大切さを感じ、令和6年4月から活動をスタートされました。

“てきてく”には、「一滴（てき）の雫から輪が広がり、地域の人々がテクテク（てく）と歩いていける居場所」、そんな思いが込められています。



続けることで身近な関係に  
この地域は自治会も無く人と  
人がつながることは少なかった

## インタビュー ②

中央まちカフェ「てきてく」  
木村健治、正美さん

のですが、この居場所を続けることで身近な関係ができてきました。最初は参加する人も少なく不安もありましたが、周りの方の応援もあり続けることができています。

単に居場所をつくるだけでなく、一人ひとりに声をかけ、この場所のことをしっかり伝えることが大切だと思っています。「誰か」「何を」やっているか分からないと、来る人も増えませんが、

「知り合いができ安心できた」  
の声がうれしい

今まで会話を交わすことがなかった人も顔をあわすと声をかけあうようになりました。一人暮らしの高齢の方も災害が起

## 特集3

誰でも気軽に  
立ち寄れる

これまであった家族や近所づきあいといった支えあいの関係性が変わっていく中、誰にも相談できず困っている方や、SOSを出せずに孤立する方が増えています。市では、人のつながりや、つながる場所が地域の中にあることで、「誰も」が安心して暮らせるよう、「みんなの居場所」づくりを応援しています。

高島市 社会福祉課 ☎(25)8120

高島市の目指す  
地域共生社会

市では、人と人との触れあいや、出会える場所があることで「つながりによるセーフティネット」のある地域共生社会の実現を目指して、地域の中の「みんなの居場所」づくりを推進しています。居場所では、人とのつながりがきっかけで、そこに参加することが生きがいとなったり、参加者同士でゆるやかな見守りを行ったりするなど、支えあいの活動が自然と行われています。



## 来たらほっこりできる場所

私にとって丸八は「みんなが集まれる温かい場所」です。お小遣いを握りしめ駄菓子を買ってくる子どもたち、「ひとりでご飯を食べるのが寂しい」とご飯を食べに来るおばあちゃん、お話が大好きなお母さん、丸八を応援してくれるお父さん、世代を超えてそれぞれの居場所になっています。

来たらほっこりできる場所。普段から「ここが開いている」と伝えるだけで、いろんな方の安心になるかなと思います。そ

## インタビュー ①

丸八百貨店

藤原穂波さん

朽木市場

## 丸八百貨店

～ みんなが集まれる  
温かい居場所 ～

「地域の憩いの場を無くすことはできない」と、令和5年4月から運営をスタート。今では、地域の方のリクエストから、「世代を超えた夜丸八」、「子どもの夏休み子どもランチ」など、さまざまな取り組みをされています。朽木の変化、居場所の変化を感じながら、店主自身もワクワクしながら活動されています。



Instagram



んな居場所になりつつあります。

地域の応援で来る人が広がる

最初は来る人も限られていましたが、地域の応援もあり、少しずつ人の行き来ができ、空気が変わってきました。

来る人の中には、「最近、あの人がしばらく見てないけど、どうしてるのかな」と気にかけることも増えてきました。

朽木から横につながり、それがいろんな場所や人につながる。小さくてもいいんです。

ホッとできる場所がこの高島に増えるといいなと思います。



“みんなの居場所”がたくさんある そんな地域をつくりませんか？

居場所は、単に行ける場所ではなく、そこに行く役割ができた、ホッとしたり、自分の時間が持てたり、いつも来る人が来ないと心配したり…

ゆるやかに参加できる居場所が増えることは、安心して暮らすことができる地域共生社会づくりにつながります。自分の居場所づくりや地域の居場所に参加してみませんか？

地域福祉計画（第4次）  
を改訂しました

1月に計画の中間年にあわせて、内容の見直しを行いました。地域福祉計画は、行政や関係機関、地域と市民が一緒になって支え合う仕組みづくりに取り組む「道しるべ」です。詳細は、二次元コードからご確認ください。